

日本災害看護学会 令和 6 年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024 年 6 月 4 日（火）

活動隊員：酒井明子、朝田和枝、花房八智代

1. 活動期間

2024 年 5 月 28 日（火）8 時 30 分 ~ 2024 年 5 月 30 日（木）17 時

2. 活動場所

避難所：正院公民館避難所：石川県珠洲市正院町 22-2-1

仮設住宅：正院町第 1 団地・集会場：石川県珠洲市正院町 1-39

宝立町第 1 団地（珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部 83）

3. 石川県珠洲市の被害状況（5 月 28 日 14:00 時点 石川県庁情報）

人的被害 死者：111 人 うち災害関連死：14 人 負傷者：重傷 47 人、軽症 202 人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊：7,038 棟 非住家被害：5,223 棟

市町一次避難所：開設 30 か所 避難者数 419 人 断水状況：約 1090 戸

4. 避難所の状況

【避難者数】

正院公民館避難所：4 人 日中 1 人

【避難所運営及び生活状況】

1) 正院町公民館避難所（5 月 28 日（火）29 日（水）30 日（木））

避難者数は減少傾向にあるが、今後の避難所の継続については未定である。

5. 仮設住宅の状況

1) 正院町第一団地：（正院小学校グラウンド 76 戸）（5 月 28 日（火）29 日（水）30 日（木））

集会場の前の駐車場番号がなくなり、搬送車の停車が容易になっていた。集会場周囲に並べられたプランタに植えられた球根からいくつも芽が出ていた。集会場の玄関の扉には、炊き出しや小学生が行う創立記念鼓笛パレードのお知らせ、珠洲市内の飲食店の求人募集が掲示されていた。

2) 宝立町第 1 団地：（宝立小中学校グラウンド 153 戸）（5 月 30 日 15 時 00 分）

晴天であり、外での立ち話や縁側に座り近所通しで会話している姿が見られた。棟の入口には苗字が記載されていた。集会場の前には掲示板があり、お知らせが掲示されていた。

6. 支援活動の実際

【避難所支援】

1) 正院町公民館避難所

(1) (5 月 29 日（水）13 時 30 分頃訪問)

来週 3 日間開催予定のお茶会のお知らせのチラシを管理者に渡し、掲示と避難者への配布をお願いした。住民の方は不在で避難所内は静かであった。

(2) (5 月 30 日（木）14 時 30 分訪問)

管理者 1 名常駐していた。これまで日中にいた 2 名の内 1 名は自宅に戻り、もう 1 名は晴天にて畑作業を行っているとの情報があった。避難者の体調不良者は認められなかった。

【仮設住宅支援】

1) 正院町第 1 団地（5 月 29 日（水）13 時頃）

来週 3 日間開催予定のお茶会のお知らせを個別に配布した。昼過ぎであったためか、訪問したお宅のほとんどが不在で、団地内で見かけた方は 2~3 人であった。仮設住宅のある 1 軒のお宅では、前日の大雨で雨漏りがあった。お茶会が始まるころに集会場へ住民の方から雨漏りの相談があった。そこで、正院地区の民生委員の方が区長にすぐに報告し、その日のうちに雨漏りの修繕が行われるよう手配されていた。

2) 宝立町第 1 団地 (5 月 30 日 (木) 15 時 10 分訪問)

珠洲市健康増進センターの宝立担当の保健師より 6 名の訪問リストの紹介があり巡回した。6 名中 3 名が在室していた。在室者 3 名は仮設住宅での困り事はないと言われていた。独居高齢者で脳梗塞既往のある方は、ケアマネジャー家族の支援を受け仮設住宅内で手すりを設置していた。難聴の男性は、インターホンが聞こえず室内でテレビを観ていた。筆談で体調や暮らしについて確認した。犬と散歩していた方は、「まあまあ元気で仕事に行っている」といいながら「夜間不眠がある」といわれていた。不在の 1 名の方は自転車で畑に行っているとの隣人からの情報があった。

【地域コミュニティ支援】

1) 区長会主催：正院第一団地集会所におけるお茶会

開催日時：5 月 28 日 (火) ~ 30 日 (木) の 10 時 ~ 12 時

参加者：5 月 28 日 (火) 15 名、5 月 29 日 (水) 18 名、5 月 30 日 (木) 17 名

5 月 28 日 (火)

ハーバリウム作成を実施した。花の色の選択について、他の方々からの助言を受けるなど交流の機会となった。参加者から今後のお茶会で実施したい内容希望やポチ袋作成の提案などを確認し、今後の計画に盛り込んだ。民生委員からは、火曜日はもの作り、水曜日は食に関する事、木曜日は運動など曜日を決めてはどうかと提案があり、地域コミュニティ再構築を考える会で検討することにした。血圧手帳を確認し、血圧測定を実施したところ、血圧上昇している方が 4-5 名おり、睡眠状態や食生活、ストレス状態などについて話を聞いた。内服薬の飲み忘れや今後のことへの不安から不眠傾向にあることがわかった。

5 月 29 日 (水)

ジェルキャンドル作成を実施した。ガラスの瓶の中に、様々な色の砂、ドライフラワー、貝殻、花、動物の小物のアクセサリーを思い思いに入れ、ローソクの芯を立てて、蠟を流し込むという作業であった。初めての方は隣通しで何を入れるとよいのか相談しながら、楽しそうに作成していた。途中、小学校から校長先生と教員、10 名の小学生が 6 月 2 日 (日) に開催される「鼓笛パレード」のお知らせのため訪問してきた。小学生の元気なお誘いにお茶会に参加していた方は笑顔で出迎え拍手していた。お茶会後半では、笑いを交えながら全員で椅子を使った高齢者リハビリ体操が行われた。更に体操後に、血圧測定など健康チェックを行った。参加者のうち数名は、血圧手帳を持参して書き込んでいた。収縮期血圧が 150~160mmHg と高めの方もいたが、内服治療をされており体調不良を訴える方は居なかった。

5 月 30 日 (木)

餃子の皮でのピザ作りと 米の炊き込みおにぎり作成の調理を行った。調理リーダーは住民代表 3 名であり、トースターの位置などの会場設定、手順の指導を行った。材料切りも住民より以前肉屋で仕事をしていた経験を生かしたいと意欲的に参加した。準備ができるまでの間、看護師は参加者の会話に入り血圧測定を実施した。餃子の皮に具をのせる作業が単純だがいろいろな作品があり、食べる時の話

の材料となった。今回の調理は、住民が主体的に実施されていると感じた。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【仮設住宅支援】

・震災から5カ月となる。正院町第1団地での集会場のお茶会も定着し、正院第1団地の方以外にも、蛸島地区の仮設住宅で生活されている方も加わり参加者が増えていた。区長、民生委員、婦人会の方が軸となって参加を呼びかけ、お茶会を盛り上げていた。ある方は、「体操一つするにも笑いを誘うように心がけ行っている。しかし、震災が起こった直後はこんなに笑いを誘うような活動をしてよいのかと悩むこともあった。でも悩んでいた時に、地震でご主人をなくされた知人から活動は続けた方が良いと言われた。この言葉がきっかけで今も活動を続けている。」と話されていた。また今後の課題についても、「ただイベントで花壇に花を植えるだけではだめだ。花を植えた後誰が水をやって育てるかもみんなで考えないといけない。そこが課題かな」と話されていた。私は4月に参加した時と比べ、被災地の方々は苦悩を抱えながらも前に進もうとしている姿が伺え、5月のお茶会の雰囲気が変わってきていると感じた。継続する支援から被災者自身が前に進もうと思えるようになってきているのではないかと考えられ、今後も継続した支援活動が必要と感じた。

・宝立町第1団地への移転から約2カ月が経過し、家電にも慣れ洗濯物が干されている等、暮らしになじんできている様子がうかがえた。訪問した方も、困り事はないと言われていた。しかし、今後季節や環境の変化によるストレスや自らの発信力には脆弱性があり、体調悪化につながりやすいと考えられる。今後も、継続した見守りが必要であると感じた。

【地域コミュニティ支援】

・正院町第1団地集会場においては、住民がリーダーになり指導して、また参加する住民もできることはするという形となり、学会は材料の準備や健康観察の見守り立場に移行してきていると考える。今後は住民に企画を立案してもらう等の自主性の定着となるような支援が必要と考える。

8. 写真



小学生によるイベント開催の
お知らせの様子



100歳体操の様子



餃子の皮を使ったピザ作りの様子